



家族で米作りと

乾燥調製作業を請け負う

河内町 森原 豊和さん

河内町の森原豊和さん(43)は、父の敏昭さん(76)から事業継承し、家族4人で稲作と乾燥調製施設の運営に取り組んでいます。米は16haで栽培。地元の農家や集落営農法人から乾燥調製作業を委託され、昨年は玄米210tに仕上げました。高齢化が深刻化する中、地域農業の担い手として期待が集まります。

専業農家の敏昭さんは1991年から乾燥調製の受託を始めました。1996年に施設を建て替えて乾燥機を増設し、事業を本格化しました。中学生だった豊和さんは、その頃から



▲家族で農業に励む森原豊和さん(右) 敏昭さん(中)、郁江さん(左)

父の仕事を継ぐことを当然のように考えており、大学を卒業してすぐに就農。父に教わりながら技術を磨き、2022年に父から事業を譲り受けました。妻の郁江さん(38)も結婚当初から東広島市園芸センターの講習を受講するなどして農業に積極的に取り組み、母と一緒に豊和さんを支えています。

米は「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」あきたこまち」など5品種を栽培。豊和さんが水などの管理全般を担います。産業用無人ヘリコプターでの防除オペレーターの資格を取得し、仲間と一緒に防除作業も請け負っています。

乾燥施設は、33×80石の乾燥機11基を備えています。農家が持ち込んだ稲を個別に乾燥し、30kgの米袋に詰め、要望があればJAへの出荷も請け負います。袋詰め作業は重労働も多いですが、家族で助け合いながら昨年は、7,000袋を仕上げました。米不足が叫ばれる中、豊和さんは消費者のためにもおいしい米を届けたい。将来的には人材を増やし、規模も拡大していくことで、地域の農業を守っていききたいと展望します。

地域の情報をお届け!



広島中央トピックス



学ぼう食と農のつながり 「田植え体験」

今年も管内各地の学校で田植え体験が行なわれました。児童は、農家やJAと交流しながら元氣よく田植えをしました。



ご協力いただいた皆さん、
ありがとうございました

河内小学校・造賀小学校・三永小学校・乃美尾小学校・
農家の皆さん



水 稲

7月からの管理について

令和7年の育苗時期には朝晩の低温などの影響で、発芽や苗の生育不揃いが見受けられました。田植え後にも低温の日があり、若干の生育遅れがあったものの、天気も順調に回復し、平年並みの生育状況となりました。

今年の夏も高温の予報が出ています。高温対策を行ない、良品質の米作りを心掛けましょう。

◆水管理

6月下旬から7月上旬にかけて無効分げつの時期になります。品種毎の株本数(「水稻栽培ごよみ」参照)となったら中干しを行ないましょう。

中干し後は土壌が乾いた状態なので、水の入れ方に注意してください。中干し後、一度に水を溜めてしまうと、根腐れを起こします。走り水で稲を水に慣らし、その後は徐々に間断灌漑に移行します。梅雨時期で十分な中干しができなかった圃場は、間断灌漑の落水期間を少し長めにし、土壌を乾かします。落水期間の目安は田面から水が引いて2〜3日で、その後に入水します。

◆穂肥

元肥で一発肥料を施用した場合、基本的には穂肥は施用しません。

7月中旬頃に葉色を観察(葉色板などを使用し、葉色を確認)し、穂肥の施用や施肥量を決めてください。

穂肥の時期については、次の表を目安に施用してください。必ず幼穂長を確認します。

穂肥は、一般に2回に分けて施用します。1回目は、出穂24日前頃で穂数と籾数の確保が目的です。品種によって若干散布の時期が異なります。

コシヒカリは、節間長が伸びやすく倒伏の恐れがあるので、節間長が

穂肥施用時期等の目安

品 種	施用時期	幼穂長	草 丈	葉 色
コシヒカリ	出穂 18 日前	8 ～ 15mm	65 ～ 70mm	3 ～ 3.5
あきろまん	出穂 24 日前	1.5 ～ 2mm	70 ～ 75mm	4 ～ 4.5
中生新千本			65 ～ 70mm	
恋 の 予 感			80 ～ 85mm	4

伸び過ぎないように、出穂18日前に施用します。
2回目は、どの品種とも出穂の10日前に施用します。

◆病害虫について

高温、高湿度の時期ですので病害虫の発生や被害に気を付けて圃場の

巡回や観察を行ない、適期防除を行ないましょう。特に出穂前後の防除は基本です。

●カメムシ類

ここ数年、イネカメムシの発生が懸念されています。カメムシは、籾だけではなく、茎の養分も吸汁します。激発地では稲の生育が衰え、籾が不稔となり収穫が皆無になることもあります。

●いもち病

稲の全生育期間において発生する病気です。いもち病は、稲の水滴にいもち病菌が付着することで発生します。気候、気温、湿度の気象条件も大きく関係しており、特に梅雨時期に注意が必要です。品種により耐病性の強弱もあり、葉色が濃い稲なども注意が必要です。発病を確認したら早急に防除をしましょう。
その他、栽培管理・病害虫防除・後期除草剤の使用方法などについては、「水稻栽培ごよみ」を参照ください。また、お近くのアグリセンター・営農指導員にご相談ください。

野菜

夏野菜の管理

7月になるとトマト、ナス、ピーマンの夏野菜は、初夏から夏にかけてぐんぐん大きく育ち、多彩な野菜が収穫できます。

誘引や整枝、追肥などを適切に行なうと、おいしい夏野菜をたくさん収穫しましょう。

また、梅雨明けしてからは環境がガラリと変わり、急に強い日差しになって気温もいっきに上がります。梅雨明け直後は多湿な状態で、急に地温が上がると病害虫の発生が多くなります。暑さ対策や除草を早めに行ない、夏に備えましょう。

◆7月に種まき・植え付けをする主な野菜

【種まき・育苗】

- ・大豆
- ・キャベツ
- ・小松菜
- ・シユンギク

【直まき・育苗】

- ・地ばいキュウリ

【植え付け】

- ・ニラ
- ・長ネギ
- ・モロヘイヤ

◆7月の主な作業

●追肥

夏野菜は7月の最盛期後に疲れが見られるようになってきます。

肥料が切れると実のつきが悪くなるので、早目の追肥が大切です。梅雨明け後の乾燥時には、肥料を施したら水をかけておきましょう。

また、雨降りが続いたり乾燥が続いたりして根が弱っている時は、液肥(300倍に希釈)の葉面散布をして野菜を元気にしましょう。

●水やり

梅雨が開けて乾燥した暑い日が続くと、土も乾燥がちになります。乾燥が続く場合には、ときどき水やりをすると野菜の生育が良くなります。

また、肥料は水に溶けないと効果が出ないので、乾燥時には肥料を施

用したら水をかけるようにしてください。朝早くか夕方の涼しい時間帯に行なうのが良いでしょう。

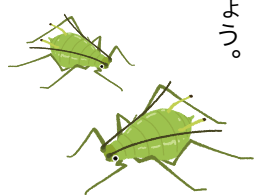
●収穫

夏野菜は7月に入ると次々と花を咲かせ収穫が本格化してきます。収穫が遅れると株が疲れ、実のつきが悪くなります。

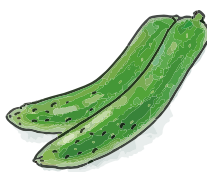
特にキュウリ、オクラは実が早く大きくなるので早目に収穫しましょう。

●病害虫対策

夏の乾燥によりハダニ類の発生、アブラムシ・コナガ等の発生・食害が見られます。また、その他の病気も発生しますのでよく観察し、適切に対応を行ないましょう。



アブラムシ



キュウリ



オクラ



●暑さ対策

株元に敷きわらや敷き草をして地温の上昇を抑えましょう。敷くときには、植え付け部分を隠さないようにします。

また、白マルチやシルバーマルチを畦に被覆するのも効果的です。夏の作業は、熱中症対策も忘れずに行ないましょう。こまめな水分補給や休憩を心がけましょう。

東広島市による農地区画拡大支援制度のお知らせ

【内容】

農作業の効率化を促進するため、農地区画の拡大に向けた畦畔の除去や整地を行なう費用を補助します。

【支援対象】

農地を所有する人、または農地を借り受けている人。

【補助金額】

畦畔除去：5,000円／10m、整地：10,000円／10a
※ただし、畦畔除去後の1区画の面積が10a以上であること。

【申込】

あらかじめ、農業委員会へ農地改良届を提出した後、申請書(市ホームページからダウンロード)と添付書類を提出

【問い合わせ】

東広島市 農林水産課
TEL：082-420-0939



広島中央地域 アグリセンター 休日営業のお知らせ

右のカレンダーのように、7月1日(火)～8月17日(日)の土曜日・日曜日・祝日は休業します。
また、8月23日(土)から土・日・祝日の休日営業を実施します。

7 July							8 August						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	⑤					1	②
⑥	7	8	9	10	11	⑫	③	4	5	6	7	8	⑨
⑬	14	15	16	17	18	⑭	⑩	⑪	12	13	14	15	⑮
⑰	⑱	22	23	24	25	⑲	⑯	18	19	20	21	22	⑳
⑳	21	22	23	24	25	㉑	㉒	25	26	27	28	29	㉓
㉔	28	29	30	31			31						

※○は休業

農機センター農繁期休日営業と 盆休業のお知らせ

広島中央農機センターは、秋の農繁期に期間、次のように土・日・祝日の休日営業を実施します。

【農繁期休日営業 実施期間】

8月23日(土)～10月26日(日)

また、次の期間を盆休業とさせていただきます。休業期間中はご迷惑をお掛けしますが、よろしくお願いします。

【休業期間】8月12日(火)～15日(金)

農業機械大展示会のお知らせ

【開催日時】

7月18日(金) AM 9:00～PM 3:00
19日(土) AM 9:00～PM 2:30

【会場】

JA全農ひろしま・広島営農技術センター
(東広島市河内町入野 11631-13)

【問い合わせ】

広島中央農機センター Tel 0120-162-315

東広島市
園芸センターより

土壌分析診断サービスのご紹介

東広島市園芸センターでは、土作り支援の一環として簡易な土壌分析・診断サービスを行なっています。
肥料が適量施用できているか、畑の土の特徴なども改めて確認し、より作物が育ちやすい土作りを目指してみませんか。

対象者：東広島市在住で野菜など園芸作物を出荷販売している方

分析内容：①pH ②EC ③NO3

申込方法：園芸センターもしくは、JAアグリセンターへ土を持参していただきます。
畑の土の取り方にコツがあるので、事前にご相談ください。

料 金：無料

その他

- ・申し込みから回答まで1週間程度かかります。
- ・認定農業者、認定新規就農者・施設栽培農業者の方などには、さらに詳しい診断も実施しています。
- ・分析業者による土壌分析診断サービスを利用される方を対象とした補助事業もあります。
- ・詳しくは園芸センターホームページをご覧ください。



申込・問い合わせ

東広島市園芸センター Tel 082-433-4411